

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団
公演団体名	日本フィルハーモニー交響楽団

内容
<p>【音楽室探検ワークショップ】</p> <p>日本フィルのヴァイオリン奏者、打楽器奏者の2名が学校の音楽室を訪問し、身近な環境で音楽家や演奏を親しく感じて頂く機会を作るとともに、児童・生徒と一緒に学校の音楽室にある楽器の魅力や合奏の魅力を発見します。内容は以下により構成されます。</p> <p>①ヴァイオリンによる演奏とワークショップ</p> <p>みなさんのよく知っている「キラキラ星」のメロディを、ヴァイオリンが様々なテンポと表情で次々と変奏し、それに対しメロディに相応しい打楽器と奏法で伴奏します。また、ヴァイオリンと弓の構造や音の出るしくみをソロ演奏とともにわかりやすく解説する楽器紹介の時間も設けます。</p> <p>②打楽器による演奏とワークショップ</p> <p>タンバリンや小太鼓や木琴等、学校が所有し児童生徒が普段手にしている楽器を取り上げ、一般的な奏法やプロならではの特殊奏法を解説しながら演奏します。楽器の演奏法について理解を深めるとともに、楽器に親近感を感じ、興味を持つきっかけを創ります。また、音楽室には普段の器楽合奏にはあまり使用しない、ボンゴやギロ等のラテン楽器もあります。これらの珍しい音色とその正しい奏法も、理解して頂きます。</p> <p>③アンサンブル</p> <p>ヴァイオリンとマリンバの合奏で、「輪唱(2人ともメロディ)」「メロディと伴奏」という形態の違いを、クイズ形式で答えていただき、楽曲の仕組みを発見していただきます。また楽員2人による、スティーブ・ライヒ:「クラッピング・ミュージック」をとりあげ、手拍子による音楽の発展形を皆さんに理解していただきます。</p> <p>④生徒との共演</p> <p>全員参加で、手拍子によるリズム体験をします。低学年でも理解できるシンプルなりズムパターンを提示し、別のグループにはそのリズムパターンに1拍を追加します。2グループが同時進行するミニマル・ミュージックの手法により、不思議な音楽空間が生まれます。</p> <p>小学校では金管バンド、中学校では吹奏楽部が活動する学校では、普段から楽器を使用しメンテナンスも行き届いていますが、それ以外の学校では近年、手入れがされていない楽器も散見されます。学校の状況にもよりますが、日本フィルのワークショップには打楽器のメンテナンスの指導も盛り込み、「楽器を大切に扱う」ことも学んで頂きます。</p>

タイムスケジュール（標準）									
8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
			学校 入り	練 習		開 演	終 演	退 出	

派遣者数
「音楽室発見」ワークショップ 合計（3名） 指導者（2名）、スタッフ（1名）

学校における事前指導
指導は特に必要ありません。事前に学校の楽器の種類・数などを教えていただきます。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団
公演団体名	日本フィルハーモニー交響楽団

演目
<p>【小学校】</p> <p>♪ ロッシーニ: 歌劇「ウィリアム・テル」序曲 より 《スイス軍の行進》</p> <p>♪ モーツァルト: 歌劇「劇場支配人」序曲</p> <p>★ 楽器紹介 (木管→金管→打楽器→弦楽器)</p> <p>♪ チャイコフスキー: 「弦楽セレナーデ」より 《ワルツ》</p> <p>♪ モンテイ: チャルダッシュ</p> <p>♪ ヨハン・シュトラウス 2 世: ポルカ「雷鳴と電光」</p> <p>★ 指揮体験コーナー (プロの指導の下、指揮者になってみよう!) * 児童 3 人</p> <p>♪ ブ람ス: ハンガリー舞曲第 5 番 (冒頭部分)</p> <p>♪ ブ람ス: ハンガリー舞曲第 5 番 * 指揮者にて通し演奏</p> <p>♪ ベートーヴェン: 交響曲第 5 番「運命」より 《第 1 楽章》</p> <p>♪ 「ビリーブ」「さんぽ」など学校と協議してご希望の 1 曲をオーケストラと共演します。</p> <p>♪ 各学校校歌</p> <p style="text-align: right;">公演時間(75 分)</p>
<p>【中学校】</p> <p>♪ モーツァルト: 歌劇「劇場支配人」序曲</p> <p>♪ ベートーヴェン: 交響曲第 5 番「運命」より 《第 1 楽章》</p> <p>【A プロ】</p> <p>♪ カジノユキ編: オーケストラで聴く日本の名曲「春夏秋冬」(ナレーション付き)</p> <p>【B プロ】 * A プロ・B プロは学校の希望を基に調整させていただきます。</p> <p>★ 楽器紹介 (木管→金管→打楽器→弦楽器)</p> <p>♪ チャイコフスキー: 「弦楽セレナーデ」より 《ワルツ》</p> <p>【A・B プロ共通】</p> <p>♪ モンテイ: チャルダッシュ</p> <p>♪ ヨハン・シュトラウス 2 世: ポルカ「雷鳴と電光」</p> <p>★ 指揮体験コーナー (プロの指導の下、指揮者になってみよう!) * 生徒 3 人</p> <p>♪ ブ람ス: ハンガリー舞曲第 5 番 (最終部分)</p> <p>♪ ブ람ス: ハンガリー舞曲第 5 番 * 指揮者にて通し演奏</p> <p>♪ ドヴォルザーク: 交響曲第 9 番「新世界より」《第 4 楽章》</p> <p>♪ 学校校歌 もしくは ビリーブ</p> <p style="text-align: right;">公演時間(80 分)</p>

派遣者数

合計 (約 72 名)
出演者 (約 65 名)
スタッフ (約 7 名)

タイムスケジュール (標準)

8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	スタッフ 入り	楽員 入り	練 習		開 演		終 演	退 出	

実施校への協力依頼人員

公演当日、搬入開始時から搬出終了時まで、体育館内に 1 名、ご協力を頂けると助かります。
冬期の公演には必ず、体育館にストーブをご用意ください。よろしくお願いたします。

演目解説

♪ロッシェニ：「ウィリアム・テル序曲」より 《スイス軍の行進》 (小学校のみ)

シラーが 1804 年に書いた戯曲を元に、1829 年にロッシェニがオペラ『ウィリアム・テル』を作曲しました。今日ではその序曲のみがしばしば演奏されています。4つの部分からなり、第 4 部(終曲)「スイス軍の行進」はトランペット、ホルン、ティンパニによるファンファーレに導かれてギャロップ調の行進曲が始まります。曲は繰り返しを経て次第に高揚し、盛大なクライマックスで締めくくられます。小学校公演のオープニングに相応しい華やかで軽快な曲です。

♪モーツァルト：歌劇「劇場支配人」序曲

「劇場支配人」は、1786 年 1 月から 2 月にかけて書かれた 1 幕の音楽付き喜劇です。物語は、劇場支配人がザルツブルクでの興行を目的に劇団の組織を計画しているところから始まります。そこに自薦、他薦の俳優や歌手がやってきてテストを受けますが、2人の歌手は「私がプリマ・ドンナよ」と言い争いになり、仲裁役として男性歌手が入っても双方全く譲りません。テンヤワンヤになって、劇場支配人は仕方なく劇団づくりの中止を宣言しますが、やがて芸術の名誉のために皆が和解し、大団円となり幕を閉じます。

♪ブラームス：ハンガリー舞曲第 5 番

ハンガリー舞曲とは、ブラームスがハンガリーのロマ(ジプシー)音楽を元に編曲した楽曲で、元は 4 手ピアノ(連弾)用として作られましたが、のちに管弦楽版に再編曲されています。第 5 番が一番有名で、舞曲ならではのリズム変化が特徴です。

♪ベートーヴェン：交響曲第 5 番「運命」より《第 1 楽章》

冒頭の「ダダダダーン」で有名な交響曲第 5 番は、日本では「運命」の名で親しまれており、まさにクラシック音楽の代名詞と言っても過言ではありません。ベートーヴェンはこの曲を作曲した当時は難聴でほとんど耳が聞こえないという絶望的な状態でした。冒頭の旋律の意味を弟子に尋ねられて、彼は「運命の扉をたたく音」だ。と言った逸話は有名です。その難聴を乗り越えて作曲し、第 1 楽章の苦しみを乗り越えて第 4 楽章へと繋がってゆくという構成になっており、その「第 1 楽章」を聴いていただきます。

♪ドヴォルザーク：交響曲第 9 番「新世界より」より《第 4 楽章》 (中学校のみ)

チェコの作曲家ドヴォルザークが作曲した交響曲で、最も人気のある曲です。アメリカ滞在中に

聞いた音楽と、故郷ボヘミアの自然や「民衆の声」といった民族的な旋律を融合させ造られました。ドヴォルザークらしい歌心が随所に散りばめられています。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

本編中は要所にトークを入れ、音楽をリードしながら進めます。退屈せずまた十分にオーケストラの音を味わえる内容になっています。

クラシック音楽を身近に感じて、「私も指揮者になりたい！オーケストラ奏者になりたい！」と思う一方、「今度はホールに出かけて行って演奏会を聴いてみたい！」と、次の段階のアクションに進んでもらえるよう制作しています。

全校で最も歌唱機会の多い作品（校歌、またはその他）を、フル・オーケストラの伴奏で歌っていただきます。

体育館では、子どもと同じ目線にステージを設営し、見やすく、聴きやすいように配慮いたします。

児童生徒とのふれあい

小中学校とも指揮者体験コーナーを設けます。事業内で体験できる人数は最大3名ですが、プロの音楽家の前に立ち、演奏を導く体験は生徒にとって得難いもので、指揮により演奏がどう変わるのか、オーケストラをリードするとはどういうことが、生徒自身が体験的に理解でき、実演に対する理解が深まります。

希望される学校には、吹奏楽部との合同演奏など、各学校の状況に合った共演形態をご提案し、より充実した体験機会となるよう工夫いたします。

